時事新報

新領地を御するの方針如何（第四）

逸田樓主人稿

我新領地の支那人を統御するの法如何にと云ふに彼等は元來、孔孟の教を奉ずるものなれば先づ彼等の思想を大に激するみとなからん爲め西洋の文明を孔孟流義に折衷して用ゆ可しとの說あれども前既に幾回か說きたる如く仁義五常の道は有名無實の空文にして實際の效力は唯支那人をして外面を飾るの資料を得せしめたるに過ぎず然るに今、一時統御の方便として孔孟尊信の風を示すみともあらんには俗に云ふ虛から出る實の喩に洩れず知らず識らずの間に彼等に釣り込まれて遂には元及び清の覆轍を蹈むみとなしとも保し難し本來今回の日清戰爭は文明と野蠻との戰にして我輩の願む所は西洋文明の一事あるのみ之を措ては我國に何の據る所かある左れば此點に於ては一歩も彼に容捨す可らず漠然たる仁又義など云へる概括の文字を列べて尋常一樣、誰の耳にも逆はざる大體論を幾度か繰返し扨その實際に之を施すの方法に至りて取留めたる要領を得ざるは所謂經書の本色とも名く可きものにして之を事の實際に適用して彼の人民を御せんとするは唯徒に其頑陋を增長せしむるに足る可きのみ現に支那政府の當局者に接したる諸國外交官の實驗に支那人は此方より夫れには同意し難しと拒絕したる事をば何度となく繰返すの癖ありと云ふ畢竟空論を空想して事物の數理に止まるを知らざる人民なれば我國が此種の人民に向て果して仁義の實を實行せんとならば文明流義の法律裁判等都て數理の範圍を離れずして止まる所に止まり彼の所謂仁義五常の空名を外にして仁義五常の實を得せしむ可きものなり

幾千年來孔孟の教化にも頑として動かざるのみか唯益すその根性の捻ぢれ來りたる程の殘忍刻薄、貪淫醜猥、迷深くして强慾非道なる頑民を文明に導かんみと固より易き術に非ず之を導くに孔孟の教を以てすれば彼等の耳に馴れたるみを却て其効なき原因なれ唯鞭々之を開て輕々之を開流す可きのみ故に今事實上に其殘忍刻薄の惡害を矯めんとならば先づ人生に名譽の重きを知らしめ一身鴻毛よりも輕し同情相憐むの士人は假令ひ不倶戴天の敵たりとも無益に其名譽は害せずと云へる武士道(シヴァルラス　スピリット)の誠意誠心を以て次第々々に之を訓導するの一法あるのみ又彼等守錢奴の本性たる强慾非道は文明世界に行はるゝ經濟の大主義を示して以て其非を悟らしむるに在るのみ彼等の迷信を破るの武器は形態實學の外にある可らず要するに彼等とて我新來の民なれば之を愛撫す可きは勿論なれども去迚、是れまで羈束なくも孔孟の教を以て彌縫し來りたる所の彼等の心底には自から陰鬱たる暴戾の氣質を包藏して時として爆發するときは平生の儒弱にも似ず其殘忍甚だ忍ぶ可し例へば彼等が敵を制して手中の物と爲すときは意想外の殘忍を逞ふするが如き片時も油斷す可らざるものなれば愛撫一片以て制御するに慮外無禮に過る可きは彼等の淫氣醜猥にして阿片を以て外國の婦女を魔睡せしめて之を辱むるは毎度聞く所なり蓋し外人を輕侮するは支那人の特質にして米人が之を驅逐せんとするも異に故なきに非ず重慶號の亂暴醜聞も全く無根ならざるを信ず可し

前來列記したる所の頑陋は深く支那人に固着したる世々遺傳の性質なれば假令ひ我新領地の民たるにもせよ之と雜婚して頑民の頑質を我子孫に遺傳せんみと其結果を思へば萬々安心す可らず抑も我國人が彼等と同等の地位に立て同等の交際に入り共に冠婚喪祭を與にす可きは彼等が果して能く迷信を棄てゝ形態實學を採用し舊來の野蠻根性を擲て文明の生活を爲し得可き事實を見定めたる後にても未だ晚からず今日俄に雜婚等のみとを云ふは大早計を免れざるものなり畢竟、吾々日本國人が安心立命の根據とする所は唯、數理に在り事の如く幻の如き形而上の空理を語らざる實驗哲學(ポヂチーヴ　フヰロソフヰー)と武士道(シヴァルラス　スピリット)の誠意誠心とに在るのみ我輩が明末の血統を立るの非を唱ふるものは之に由て復もや儒教主義の再燃を來し其儒風を永くして此大切なる地球面に廣大なる汚點を遺し無數の生民を暗黑の間に生死せしめんみとを懼るればなり我國民は我新領地人民に對して治者なり主治の人種(ガヴァルニング　レース)なり安ぞ能く彼等と伍を同ふせんや雜婚に由て性質頑陋なる子孫繁殖を恐るゝのみならず主治者の威嚴に於ても對等は假に許す可からざるなり

(完結)

雜報

〇戰地の來信

左の一書は第二軍に從軍し徐家屯に屯營中なりし某氏より本月一日付を以て社友に寄せたるものなり

新年の御慶目出申納候偖偵察隊の報告に依れば蓋平府方面に數多の敵兵屯在致し居候由に付急に同府への要路たる當徐家屯へ罷越申候

第一軍の第三師團は既に海城を占領致候報知有之又蓋平府は當時尙は三萬の敵兵扼守致居候との確報も御座候間我第一師團は進擊の準備を整へ先月二十六日を以て發程の豫定に御座候處其前日に至り第三師團は海城附近に於て十萬に近き優勢の敵兵を擊破し敗將宋慶は遂に營口に向て退却せりとの飛電到着せし爲め我師團の出發は見合はすみとゝ相成申候然るに昨日接手せし報知に依れば宋慶はヰンショウに退き三千の敵兵は營口より進發し又遼陽と海城との間に於ては三萬の敵軍南進するものゝ如し云々と有之諸報區々其正確なる所は充分相分り兼候得共兎に角渤北沍寒の地氷雪を犯して獨り苦闘轉戰する第三師團の勞は左みぞと思ひやられ申候

本日は元旦のみとゝて目出度は言ふまでも無之候へ共我大日本帝國の新占領地に於て戰勝の榮を荷ひつゝ二十八年を迎ふるみとに候へば其目出度も一層に御坐候間餅もなければ酒もなく何一つ備はりしものはなけれども先づ松と七五三繩だけは整へんと米俵を解いて七五三繩を綯ひ遠方より松が枝を切り來りて之を立て國旗を飜へして聊か祝儀だけは濟みたりと互に笑ひ興ずる間にも何時進軍の命下るも計り難ければ孰れも氣は落付き兼ね申候

時候は此間より却て暖かなる心地致候尤も老土人の言に依れば當年の暖氣は三十年後始めてなりと申居候

出發の砌り士卒に渡りたる被服は

外套一、綿衣袴一、メンチル襦袢袴下各一、莫大小胴上一、莫大小靴下三、同上手袋二、靴二、チル腹卷一、軍帽一

に有之候處先月中旬毛布外套及び手袋、チル襦袢、莫大小袴下、同靴下、紙製胴着も各相渡り下旬には尙は毛布一枚宛相渡り候に付先づ是にて防寒は充分なりと存居候處昨日に至り又々毛布一、メンチル襦袢、袴下各一、足袋一宛被相渡候間最早如何なる寒氣にても大丈夫と被存候第一軍は輜重縱列の續かざる際は時々糧食の缺乏を告げたる樣傳聞致居候へ共第二軍は幸に今日迄未だ一日の缺乏を告げたるみとも無之副食物として受取りたる物も大略左の如くに御座候

梅干、ラッキョウ、味噌漬、鮭、鱒、かます干物、切昆布切鯣、干海老、椎茸、干瓢、凍豆腐、とび魚干物、もろわじ干物、奈良漬、けぜの佃煮、ごまめ佃煮、鰹佃煮、牛佃煮、鰹節、牛豚罐詰各種、舶來罐詰三四種、日本味噌醬油

又土人より買取りたる物は左の數種に御座候

牛、豚、家鴨、砂糖、味噌、大根、支那茶、菜漬、茶、甘藷、葱、人參、小豆、玉子

味噌は幸ひ土人の戶毎に貯へ有之候間三度の食事に味噌汁の羹にて腹を充たし候儀は士卒に取りては何より以て結構のみとに御座候併し鮮魚の口に入らざるは至極殘念に存居候處先般狩子窩より生鱈を買ひ取り來り分配致され候上陸以來始めての事とて孰れも舌打ち鳴らして賞味致候日本酒は上陸以來一合又は一合半の割にて五六度、烟草は五本又は廿本の割にて三四度相渡り申候此程は旅順占領に付陛下より紙卷烟草百本、酒二合の割にて恩賜相成申候酒保にて少々宛買取り候酒烟草にては到底士卒の用に足り不申候間止むを得ずチャン酒(粟にて釀せし我燒酎に似たるもの)烟草等土人の貯へ置きし物を買取りては間に合せ居候

上陸の當坐は土人は孰れも逃逸致し候へ共吾軍より各地に諭告文を揭げ歸着致候者は慰撫至らざるなきに付軍隊と土人との間も頗る親密に赴き水を酌み薪を運び喜んで奔走するのみならず時々高粱團子を送り與るゝなど至て親切に御座候故我兵士よりも飯を分ち金錢を與へなど致し種々勞はり申候想ふに支那兵には輜重などの準備は充分無之候間頗りに奪掠徵發を恣に致候ひしに我軍隊は秋毫も犯す所なく却て之を慰撫するが故に全く心服致候樣に御座候

土人の家にては大抵一大鍋を有し居候に付暖き日は其內に湯を沸かし身體を洗ひ來り候處近來は大に發明致菜漬用の大瓶を淸淨に洗ひ竈へ据え込み之にて湯を沸かし其內へ飛び込み沐浴仕候へ共五右衞門風呂などの比にあらずして中々心地宜敷御座候實は此近傍には風呂場のなきより無據窮策に御座候

斯く認め來り候折柄大隊本部の急命に依り早速出頭致候處海城に在る第三師團は三面に强勢の敵を受け危急の形勢に付乃木少將は一隊の兵を率ゐて明後三日を以て進軍する旨の達しに有之愈々北進と相定まり候間七八日後は蓋平附近に於て一戰可有之と踴躍罷在候(以下略)

〇旅順の虐殺は虛報ならん

去月十七日の紐育タイムス新聞は旅順虐殺の虛報なるべきを說き又之を以て日米條約の批准を拒まんとするは日本に貨物を輸入する商人等の策略なるみとを記載せり其要旨に曰く上院議員は一兩日の中に日米新條約に對し審議を試むるの手續を終りたるが右條約は公衆の氣受頗る宜しく別に異議なくして
しと思はれたるものにして其條項の
英新條約に勝り日本の好意を求めん
外交家をして後に瞠若たらしめたり
るに十二月十二日の紐育一新聞紙が
信なりとて日本軍が旅順口に於て仕
たりとの報道を揭げしより端なくも
に後戻りしたれば之と對等の條約を
攻擊起れり其報道に曰く外國從軍者
るに忍びず隊をなして日本軍を立去
立去りたるみと果して事實なりとせ
界の他の部分に同一の報道をなさゞ
事なきは怪むべし我東洋艦隊の司令
が海軍省に旅順の沒落を報告するに
壞せられたるみとなしと云へり若し
戮せられたらんには司令官も必ず之
ならん此の恐るべき報道を公にした
其眞僞を疑はしむるに足るべき材料
紙は旅順沒落の當時從軍せし外國通
員一人のみなりと云ふ一人が隊を去
ふは既に矛盾を免れず惟ふに所謂
の如く甚しからざりしものならん
もなき虛報なるを發見するやも知
同新聞に依れば上院は虐殺の報道に
んとしたる條約の審議を見合せたん
は日本が野蠻の境遇に後戻りしたれ
年より治外法權を撤去し米人の生命
下に委ぬるを危險なりとするにあ
きみとあらば上院は大早計をなすも
らず虐殺の報道を讀みたる上院議
日本軍隊の紀律嚴肅なるみと滿州
心を得るを勉めたるを報道したる
ず此の如き日本軍隊が不撲勝利後
一拋せんと欲するにあらざれば條
出づるみとあるべからず米國內新
あるは勿論なれども其反對の理由
にあらず商賈上の利害より來るもの
くに日本に關稅制定の權を一任し
從價稅を賦課したるときは僅少の
べければなり就中石油商人の如き
るみとあらん又條約批准前虐殺の
調査會を開くべしとの說もある由
行するに至らば上院は狼狽して國
略を忘却したるの誚を免るべから
するは幾分かデモクラット黨の信
より待んとしたる利益を失ふべし
ン黨員もあらんなれば政略上より
のもあらん云々

〇戰地死亡者

在戰地陸軍々人及び軍屬戰死及び

昨年十月十日朝鮮國平壤兵站病院に於て負傷に因りて死亡　靜岡縣富士郡富岡村　陸軍步兵一等卒　佐野什十郎

同二十日同國同病院に於て病死　同縣志太郡朝比奈村　同　[illegible]辰次郎

同二十[illegible]　同[illegible]　同二[illegible]